

新春 おめでとうございます

辰年、また、あらたな一ページの幕開きです。

卓球界は、コロナ禍にめげず、水谷 隼さんや石川佳純さんなどの牽引で次世代が大きく育ち、これからの活躍がますます期待され大きな注目を浴びています。

この機に、わが卓球界も大谷翔平選手をしのぐ逸材が出てくることを、前もって祝っておくことで悲願が成就する『予祝』でと、前向きに考えます。

『予祝』のキーワードは、大谷翔平選手や藤井聡太さんにならって「最大化」でしょうか。

自己のパフォーマンスを「最大化」した姿をイメージし、それに向かって日々工夫を重ね努力する。

そして、「最大化」への道をささえるものは3つ、合理的アプローチ、謙虚さ、心理的安全性です。

まずは、合理的アプローチ。

大谷翔平選手ですが、小学5年生の教科書に載った「私と算数」にあるメッセージにあるように打撃フォームを三角形に置き換えて体重のかけ方を考えていることなど、数学的解析で不断に自分の能力の「最大化」を図っているようです。

藤井聡太さんもいうまでもなくAIを活用して、己の能力の「最大化」を成し遂げ、八冠達成です。

考え考え抜いて合理的アプローチを模索し自分を「最大化」する、まずはここからです。

次に、謙虚さ。

わたしたちは、謙虚さを見失ったとき能力の限界が訪れることを、あらゆる場面で教えられます。

一方、大谷翔平選手しかり、藤井聡太さんしかり、謙虚さを見失わなければ無限の可能性が広がります。

謙虚さとは、自分の真の姿(力)や周囲の状況をきちんととらえる能力のことのようです。

最後に、心理的安全性。

これは、とくに指導的立場にある人に求められるもの。

大谷翔平選手を育てたWBC栗山監督、藤井聡太さんを支えた杉本師匠、お二人に共通する心理的安全性の担保役。

もちろん、大谷翔平選手のチームメイトへのあのメッセージ「今日は、あこがれることをやめて」も、心理的安全性担保の象徴的なものです。

卓球を愛するわたしたち、ことしも互いに自己研鑽を重ね、合理的アプローチ・謙虚さ・心理的安全性に軸足を置いた「最大化」を旗印に、まだ見ぬ世界に至りましょう。



一般社団法人 和歌山県卓球協会
会長 茂原 治